いぶき第500号　記念特集誌

星和台連合自治会
〒 651-1121　神戸市北区星和台6丁目28番14号
☎ 078-592-1117　[mail] seiwadai_rengo@gaia.eonet.ne.jp

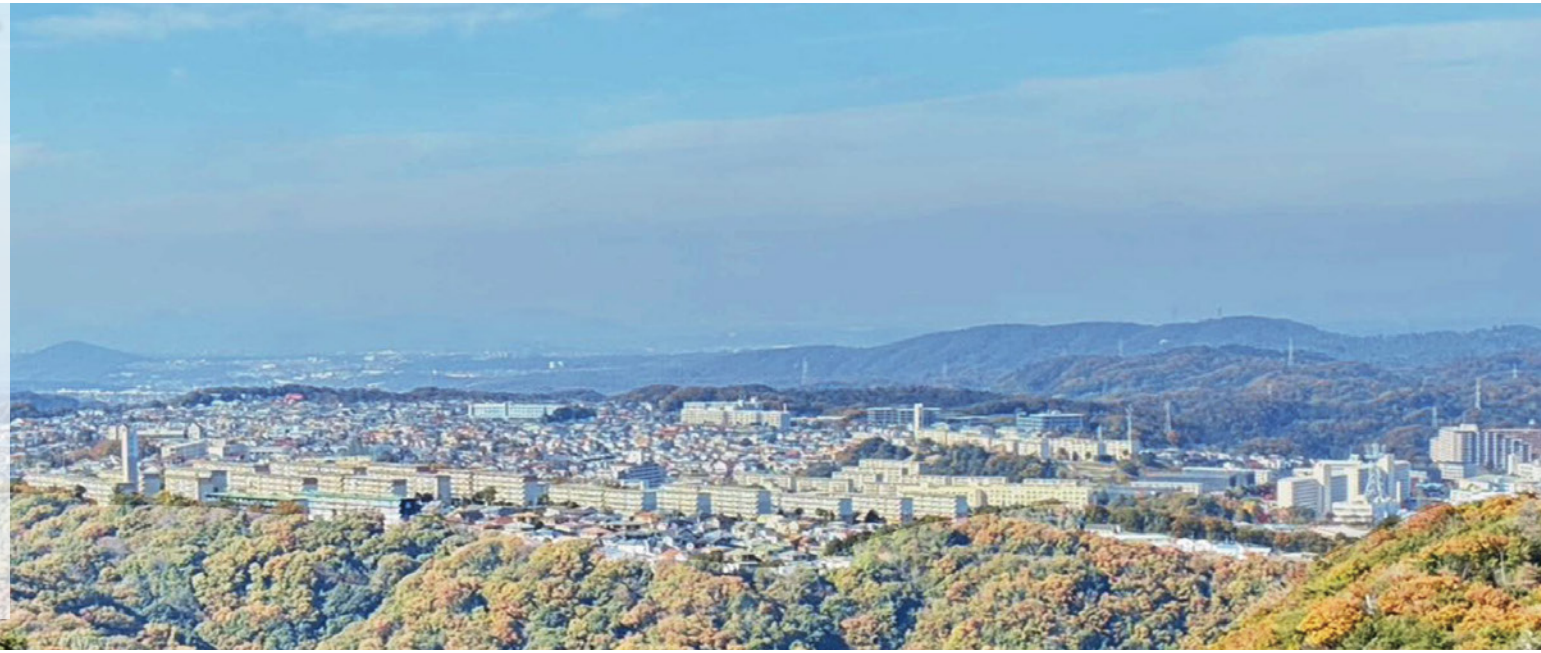
いぶき 500号

記念特集誌

星和台連合自治会

もくじ

星和台連合自治会会長　挨拶 ・・・・・・・・・・・ P1
神戸市北区長　祝辞 ・・・・・・・・・・・・・・・ P2
星和台住民の声 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3
Ⅰ．星和台のあゆみ ・・・・・・・・・・・・・・・ P5
Ⅱ．地区の福祉団体 ・・・・・・・・・・・・・・・ P9
星和台連合自治会
■設立時の背景　■活動の記憶　■今後の重点課題 ・・・ P9
■夏まつり　■文化祭 ・・・・・・・・・・・・・・・・ P10
■敬老のお祝い　■新１年生のお祝い　■健康教室 ・・・ P11
■クリーン作戦　■公園清掃 ・・・・・・・・・・・・・ P12
ふれあいのまちづくり協議会 ・・・・・・・・・・・・ P13
青少年育成協議会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P15
民生委員児童委員協議会・・・・・・・・・・・・・・・ P17
寿会／婦人会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P18
星和台・鳴子とんどまつり実行委員会 ・・・・・・・・・ P19
Ⅲ．地区防災の取組み ・・・・・・・・・・・・・・・ P20
Ⅳ．地区防犯の取組み ・・・・・・・・・・・・・・・ P21
Ⅴ．広報誌「いぶき」のあゆみ ・・・・・・・・・・・ P22



会長挨拶

星和台連合自治会　会長

佐藤　修一

星和台・鳴子地区は、六甲山系の丘陵地帯に、3,000を超える低層住宅が広がる街で、気象や地形に恵まれていることから自然災害に強く、また住民の防犯意識の高さから犯罪発生率も低いなど、その住環境の素晴らしさは周囲から高い評価を頂いています。

広報誌「いぶき」は1982年の創刊以来40余年の永きにわたり、自治会活動の透明性やさまざまな地区コミュニティ情報を配信することで、星和台・鳴子地区の良好な住環境の創造と維持に多大な貢献を果たし、昨夏、500号の発刊に至りました。

この間、温かく見守りご愛顧を頂いた住民の皆様をはじめ編集発刊作業に携わってこられた関係者の皆様には、深い敬意と感謝をもって御礼を申し上げます。

本記念特集誌は、星和台・鳴子の誕生から今日までの歩みや地区福祉団体の活動状況を中心に編集しており、住民の皆様が“ふるさと星和台・鳴子”の記憶をたどるきっかけとなればこれほど嬉しいことはありません。

創刊以来発刊号数を重ねるほどに星和台・鳴子の街も歳を重ね、広報誌「いぶき」に期待される役割は年々変化しながらもますます重要になっています。

広報誌「いぶき」はこれからも内容の充実と発刊の継続に務めてまいりますので、引き続きのご愛顧とご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

区長祝辞

神戸市北区長

三木　由美子

“広報誌「いぶき」500号記念誌“の御発刊にあたり、心よりお祝い申し上げます。

星和台は1969(S44)年に宅地造成が始まり、1972(S47)年に「星和台」と町名が名付けられました。1973(S48)に誕生した「北区」と「星和台」は、まさに同じ歩みを進めてきたと言えます。六甲山系北側の自然豊かな高台に位置する閑静な住宅地として発展してきた星和台・鳴子は、地域の皆様が質の高い暮らしを追求され、夏まつり、文化祭、防災活動、敬老行事など四季折々の催しを通じ、世代を超えた絆を築いてこられました。阪神・淡路大震災後には仮設住宅の方々との交流にも取り組んでいただきました。星和台連合自治会を中心に力を合わせ、長きにわたり快適で安全・安心なまちづくりへのご尽力されてきたことに深く敬意を表します。

広報誌「いぶき」は星和台連合自治会の発足3年後の1982年に第1号、1995年からは毎月発刊されており、丁寧な地域活動の取り組みにはご苦労もあるのではと拝察いたします。区役所にも毎月届けていただき、楽しみに読ませていただいています。このたび500号を迎えられたことは、地域の歩みの証であり、今後も星和台・鳴子にお住いの皆様が安心で快適に暮らせますように、きめ細やかにタイムリーに地域情報の発信を続けていただけることを期待しております。

星和台連合自治会のさらなるご活躍とご発展、星和台・鳴子にお住まいの皆様のご多幸とご健康をお祈りし、お祝いの言葉といたします。

星和台住民の声

「いぶき」500号に思う

1丁目　新井　忠吉

「いぶき」発刊500号バンザイ・おめでとうございます・ありがとうと申し上げます。

私が発刊責任者としてかかわったのは7年間（84か月）でした。続けることの苦しさを感じたことは何回もありました。

続けることが出来たのは、いろんな人より星和台連合自治会の誇るところがいっぱいあっていいですねの声でした。誇りは、①自治会館があること、②広報誌「いぶき」が毎月発刊されていること、③活動が続けられる組織があること、④建築協定等があることでした。誇れる広報誌「いぶき」が500号を迎えると聞き万感迫るものがあります。私が発刊を続ける必要性を感じたのは3つあります。①情報の共有、②連合自治会の活動監視、③世論（住民）の形成でした。今後発刊の仕方については時代で変化すると思います。インターネット・SNSの普及により『紙』ベースからパソコン・携帯電話等に変わるのかもと考えますが、高齢化した星和台では時間、コストがあると思いますが、『紙』による発刊も続けて欲しいものです。

最後に第1号の発刊から続けてくれた先人に敬意を払い、「いぶき」の発刊をいつまでも続ける決意を持ってほしい。

「いぶき50号 1987年（S62）9月」に掲載された”手作りダンジリ”

7丁目　延藤　隆夫

後世に残り、人の繋がりをも生み出す「ダンジリ」を星和台子供会の木村大義会長と作ることになった8月の初めより7丁目片隅の倉庫で製作を始める。完成目途は「星和台夏まつり盆踊り大会」の日だ。数人の仲間も加わって、連日夜遅くまでの作業が続いた。どこで聞き及んだのか工程の終盤には新聞の取材も受けた。そして8月22日の早朝に仕上り、杉尾神社の安全祈願のお祓いも受け、夕刻より法被姿の子供たちに引かれて町内巡行が始まる。屋根に上がって子供の叩く鉦太鼓の調子に合わせ、綱を引く子供たちを団扇で鼓舞する若者も現れた。提灯に明りを灯し、多くの歓声を受けて祭り会場に入場した子供達の表情は晴れやかだった。この後8年続いたダンジリ巡行ではあったが、平成7年の阪神淡路大震災で中断。今も星和台公園の倉庫で眠っている。いつの日か、このダンジリ巡行が復活することを願いつつ、星和台連合自治会の更なる発展を祈念します。

ふりかえりと前進

7丁目　扶蘇　郁雄

初めて星和台に足を踏み入れた時、なんと素晴らしい街並みなんだろうと感動したものです。もう40年以上も前の話です。その後、この星和台では①自治会に入会しなければならない、②建築協定に入らなければならない、その他いくつかの決まりごとがあることがわかりました。「そうか、この決まりごとがあるから整然としているのだな」と納得したものでした。

そして、自治会や青少年にかかわる組織に入ってずっと活動を続けるうちに、この地域内のほとんどの団体・組織とかかわりを持つことになりました。

多くの地域コミュニティが崩壊していく中で、この星和台は安全安心な街として他地域から一目置かれております。

この星和台連合自治会をはじめとして、各種団体が結束してさらに住民同士が住みやすいまちづくりに努めなくてはいけません。そのための一つのツールがこの広報誌「いぶき」ではないでしょうか？ますますの紙面充実を目指していっていただきたく500号のお祝いの言葉といたします。

Ⅰ．星和台のあゆみ

1969年（S44）
10月　星和台宅地造成開始

1976年（S51）
4月　星和台幼稚園開園
　　星和台小学校・星和台中学校開校

『星和台小学校開校始業式』

当時、小学校は児童１８名で、新１年生１２名の併せて３０名でスタート
星和台中学校は２３５名でスタート

1979年（S54）
11月　星和台連合自治会発足

1982年（S57）
6月　いぶき１号発刊
8月　星和台夏まつり盆踊り大会２日間開催
8月　星和台子供会発足
10月　第1回各丁対抗家族大運動会開催（1989年まで）
11月　ファミリーホール文化教室作品展示会３日間開催

1984年（S59）
11月　町章決定

1985年（S60）
4月　頌栄保育園開園
7月　「星和台音頭」が完成

1986年（S61）
5月　「星和台老人憩いの家」開会式

1987年（S62）
4月　星和台婦人会発足
8月　夏まつり会場までダンジリ巡行

『ダンジリ（1987年）』

『倉庫に眠るダンジリ』

1988年（S63）
7月　市バス66系統　運行開始

1989年（H元）
3月　星和台コープ開店
4月　しあわせの村開村式
11月　ファミリーホール増改築落成式典

『ファミリーホール増改築後』

1990年（H2）
2月　星和台自主防災推進協議会発足
3月　星和台自主防災推進協議会発足式典
9月　青少年問題協議会星和台支部発足
11月　災害救助協力委員の委託

1991年（H3）
8月　地域交通安全活動推進委員制度の発足
10月　神戸市建築協定北区連絡協議会の発足

1993年（H5）
9月　阪急バス150系統　運行開始

1994年（H6）
4月　星和台ふれあいのまちづくり協議会発足

1995年（H7）
1月　阪神淡路大震災
　　２丁目公園（30戸）・５丁目公園（20戸）・鳴子西公園（28戸）に仮設住宅を建設
11月　ファミリーホール・フェスティバル開催
　　この年よりファミリーホール利用者団体を中心として展示・発表会を実施
12月　星和台地区民生委員児童委員協議会発足

1996年（H8）
2月　星和台自主防災推進協議会および北防犯協会星和台支部解散
3月　幹事会で会則改正案まとめる
12月　公園管理会の効率的な作業のため軽トラ購入

1997年（H9）
1月　防災科学館見学
5月　ファミリーホール補修完了
6月　「こどもＳＯＳ110番」

1999年（H11）
2月　地域福祉センター建設決定（2000年5月完成）

2000年（H12）
1月　臨時総会連合自治会会則改定
3月　地縁による団体の法人化認可
　　星和台鳴子防災福祉コミュニティ発足
5月　違法駐車パトロール（1～3丁目）
9月　星和台鳴子防災福祉コミュニティ発足式と敬老祝賀会
　　星和台コープ閉店

『敬老祝賀会』

敬老の日を祝して、当時は区長や北警察署の方々が参加し、にぎわいを見せていた。

2001年（H13）
10月　「万代」オープンセレモニー
11月　「ひふみ園」説明会

『万代オープンセレモニー』

万代開店を記念して、星和台文化祭でも祝賀会を行う

2002年（H14）
3月　「ひふみ園」説明会
4月　ひふみ園移転専門委員会設置
11月　第1回防災訓練

1969

- 1973年8/1北区誕生
- 1985年8/19神戸新聞に住民手づくりの「星和台音頭」が掲載
- 1987年8/22神戸新聞に「まかしとき手作りだんじり」が掲載
- 1989年1/8平成へ改元

2000

- 1995年1/17阪神淡路大震災
- 1997年2月須磨児童殺傷事件

Ⅰ．星和台のあゆみ

2003年（H15）
1月　コミュニティ安全マップ説明会
6月　青色防犯パトロール開始

2004年（H16）
4月　会則の役員職別が改正され、現在の連合自治会体制となる
10月　「地域の見守り隊」発足
ワンワンパトロール隊・散歩グループパトロール隊
10月　給茶機サービス開始
ひふみ園の問題再検討

2006年（H18）
4月　子供見守り隊８団体となる
8月　第１回クロスロードゲームinせいわだい（2016年まで）

2007年（H19）
8月　「ひふみ園」運営に関しての説明会

2008年（H20）
11月　ゴミ出しルール変更
11月　振り込め詐欺が多発（星和台１件）

2011年（H23）
10月　第１回星和台里山フェスタ開催

2012年（H24）
4月　人口約7,300人・戸数2,600軒
平均家族数2.65人　65歳以上約33%
6月　65歳以上35.7%北区最高

2013年（H25）
3月　星和台婦人会活動終了（25年間）

2016年（H28）
3月　AED設置
5月　連合自治会未来検討会設置

2017年（H29）
5月　青少年委員会を安全委員会に加える

2020年（R2）
3月　新型コロナのためファミリーホール休館や午前のみ開館となる
4月　分割方式定例総会（午前・午後に分割）
ラジオ体操・夏まつり・文化祭の開催中止

2021年（R3）
1月　とんどまつり中止（2022年再開）
7月　ラジオ体操再開
夏まつり・文化祭の開催中止（2022年まで）

2023年（R5）
夏まつり・文化祭の開催再開

2024年（R6）
2月　3丁目一部の道が30km/hとなる

2025年（R7）
2月　星和台交番閉鎖

2003

- 2003年8/3「防犯パトロール運動」について読売新聞に掲載
- 2003年12/20「防犯パトロール運動」がサンテレビで放映
- 2004年10/23新潟県中越地震
- 2004年4/24「防犯運動」がサンテレビで放映
- 2011年3/11東日本大震災
- 2016年4/14熊本地震
- 2019年5/1令和へ改元
- 2020年新型コロナウイルスの流行
- 2021年東京オリンピック・パラリンピック開催
- 2024年1/1能登半島地震
- 2025年大阪・関西万博開幕

宅　地　造　成

星和台の歴史

星和台、鳴子の宅地造成が始まったのは、1969年（S44）秋の第1期工事で星和台5丁目からでした。1972年（S47）3月に完成し、「星和台」という町名が生まれました。1981年（S56）に鳴子の開発が始まり1982年（S57）に「鳴子」の町名が誕生しました。

1期工事：1969年（S44）10月～1972年（S47）3月 ・・・ 5丁目
2期工事：1971年（S46）4月～1981年（S56）4月 ・・・ 1丁目・2丁目・3丁目・4丁目・6丁目・7丁目
3期工事：1980年（S55）10月～1985年（S60）10月 ・・・ 1丁目・2丁目
4期工事：1981年（S56）3月～1984年（S59） ・・・ 1丁目
5期工事：1981年（S56）6月～1984年（S59）3月 ・・・ 7丁目・鳴子
6期工事：1988年（S63）1月～1988年（S63）12月 ・・・ 2丁目

（星和台・鳴子むかしと今　1989年4月発行　萩原和久　柏木一伸　編集より）

星和台連合自治会

■設立時の背景■

1) 1979年11月、星和台連合自治会が発足しました。
2) 設立の主旨は『会員の快適で充実した生活を実現するため、良好な地域社会の形成と維持に取り組む』としています。
3) 1979年当時の会員数は約940世帯でした。
4) 当時の主なできごとは、インベーダーゲーム大流行、ウォークマン発売、広島カープ初の日本一、第二次オイルショック、サッチャー氏がイギリス初の女性首相に就任、等でした。

S59年　星和台町章完成（延藤隆夫 作）

■活動の記憶■

◆1982年　会員数約1,300世帯
- ◉第1回夏まつりを開催。
- ◉「子供会」を発足。
- ◉第1回運動会を開催。
- ◉文化教室作品展示会を開催。

◆1983年　会員数約1,400世帯
- ◉各丁「基金」制度がスタート。

◆1984年　会員数約1,500世帯
- ◉第1回文化祭を開催。
- ◉「町章」を制定。

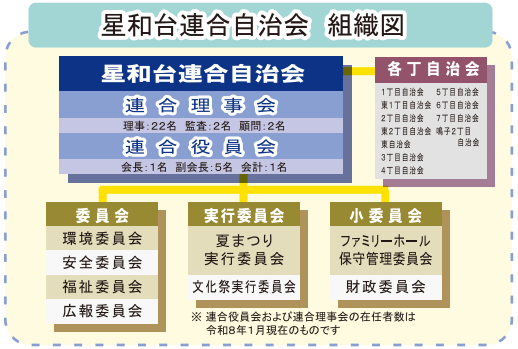
◆1994年　会員数約2,300世帯
- ◉連合自治会の運営に対する住民の是正要求が高まる。
- ◉その後、1996年まで暫定体制により連合自治会運営の再構築に取り組む。

◆1997年　会員数約2,500世帯
- ◉須磨児童殺傷事件を受け、町内防犯体制の抜本的強化を推進。夏まつりや文化祭を中止。

◆2001年　会員数約2,600世帯
- ◉「ひふみ園移転計画」の対応に追われる。

◆2009年　会員数約2,600世帯
- ◉1983年に創設した各丁基金制度の後継制度として「特別会計制度」を創設。

◆2020年～2022年　会員世帯数約2,600世帯
- ◉コロナ禍により夏まつりや文化祭等の主要イベントは全て中止。



■今後の重点課題■

後継者不足による自治会活動の低迷に歯止めを！

- ◆ いま私たちが手にしている安全で安心な生活環境は、自治会活動を通じた住民同士の良好な相互扶助関係により維持されています。
- ◆ 自治会活動の低迷が生活環境を著しく悪化させる例が、全国各地で多発しています。
- ◆ 星和台連合自治会は、住民の皆様が自治会活動に参加しやすい環境作りに努め、途切れることのない自治会活動人材チェーンを作ることで、自治会活動の円滑な継続の実現に取組んでいます。

■夏まつり■

「夏まつり」の初めての開催は1982年（S57）南鈴蘭台公園でした。1985年（S60）には住民手づくりの「星和台音頭」が作られマスコミに取り上げられました。この年からは星和台公園が会場となりました。平成7年の阪神淡路大震災以降は公園に仮設住宅が建ち、源治谷公園・星和台中学校校庭での開催となりました。2000年（H12）から1日の開催となり現行に至っています。2020年（R2）～2022年（R4）の3年間は新型コロナで中止になりました。2023年（R5）に新型コロナ感染症が2類より5類に移行され、3年間のブランクの後に「夏まつり」を立ち上げる事となりました。一度中止をした後の開催の難しさを痛感しました。人が3密にならように、また、非接触型にも注意を払い開催後1週間は、パンデミック等の情報が無いかと心配しました。当日の会場を見て開催出来て良かったと思いました。子ども連れの家族が多数来場され、高齢化の高い街と認識していましたが、若い世代も多数見られました。

「いぶき」700号が発行される17年後の少子化を想像すると、踊りの師匠は二足歩行のロボットが踊り、壁面に動画を映して、皆が動画を見ながら踊ることもあると思います。会場に行けない高齢者の方には、ファミリーホールでリモート会場を設けて公園の様子が映り会話できる状態や、模擬店の注文がタッチパネルで出来て、随時オーダー可能としたい。また、AIとロボットでファミリーホールに居ながらヨウヨウ釣りができるような、希望的感想で将来展望に期待します。

アイスキャンディー券配布所

やぐら（1996年）

やぐら（2025年）

盆踊り

■文化祭■

文化祭の前身は、1982年（S57）11月に3日間開催された「文化教室作品展示会」でした。1984年（S59）11月には「ファミリーホール開館5周年記念行事」として2日間開催されました。その後は毎年11月に2～3日間開催されるようになりました。1989年（H元）には、ファミリーホール落成セレモニーとの同時開催で4日間されることもありました。1995年（H7）には名称を「ファミリーホール・フェスティバル」として、利用者団体による展示・発表会が行われるようになりました。2003年（H15）には「星和台フェスティバル」に、2008年（H20）には「文化祭」と名称を変更しています。

バレエ

舞踊（1991年）

開会挨拶（会長）

リサイクルバザー

星和台連合自治会

■敬老のお祝い■

1991年（H3）9/29に第1回敬老祝賀式典が星和台幼稚園で開催され、その後は毎年ファミリーホールで祝賀会が行われました。2000年（H12）9/10には防コミ発足式と敬老祝賀会が開催されました。

2001年（H13）からは敬老行事として70歳以上の方へ記念品の配布に変わりました。高齢化が進み2011年からは、対象者を80歳以上に変更となり、2024年からは記念品の配布を一世帯1個となりました。

敬老祝賀会（1998年9月）

北消防署より防災資機材授与（2000年9月）

■新１年生のお祝い■

福祉委員会活動の一環として、敬老の日だけではなく、子どもたちにも何かお祝いをできないかと考え、2023年（R5）4月から新一年生のお祝いとして図書カードを配布しました。2023年（R5）は29名に、2024年（R6）は50名に、2025年（R7）は39名にお渡ししました。

■健康教室■

普段皆様がお世話になっている地域の医療関係の先生方に「健康講話」をお願いして、会員の皆様の健康意識向上・維持を図っています。また、介護老人保健施設リハ・神戸の方に「健康教室」を開催していただき、フレイル予防に努めています。

■クリーン作戦■

星和台地域は緑が多く、街並み景観の美しいのが私達の自慢です。しかし、秋になれば、紅葉は綺麗な街並みですが落ち葉に悩まされています。また、雨降り後は、滑りやすく危険でもあります。そこで、平成19年より、11月にファミリーホールから西鈴蘭台駅の歩道の落ち葉拾いを開始しました。それがクリーン作戦のスタートでした。

そして、現在、実施している全丁一斉クリーン作戦は、平成23年より行っています。

■公園清掃■

星和台連合自治会地域には、公園が現在14カ所あり、星和台公園管理会が公園所管の神戸市と連携し、活動を行っています。公園管理会とは、神戸市の公園管理会制度に基づき、星和台連合自治会が公園管理会を発足させ、日常の清掃等の管理を行っています。

また、平成13年度より神戸市は、既存の公園管理会の活性化を図るとともに多様なボランティア団体も参画できるように制度変更を行い「まちの美緑化ボランティア」として神戸市より活動助成金の交付を受け、公園管理会の運用を行っています。

ふれあいのまちづくり協議会

II. 地区の福祉団体

星和台鳴子ふれあいのまちづくり協議会は、1994年(H6)4月に星和台小学校区地域内の福祉活動を実施推進する為に設立されました。協議会を構成する委員は、地域の福祉関係団体及びボランティアで、約30名程度でした。設立時は、活動拠点となる地域福祉センターはまだ無かったので、ファミリーホールに事務局を置いていました。その為、ふれあい食事会は「生協」の2階の部屋を借りておこなったり、1995年(H7)の阪神・淡路大震災後、星和台公園、南鈴蘭台公園などに仮設住宅が出来た時には、出かけて行ってお正月の餅つきを一緒にしたりもしました。

2000年(H12)5月に、既存の「老人憩の家」を建て替えて地域福祉センターが完成しました。新しい福祉活動拠点が完成して、いろいろな地域の福祉活動を行ってきました。

その約10年後、兵庫県の助成金で、2階和室の洋室化、トイレの洋式化、調理設備の整備充実もしました。ところが、この地区住民の急激な高齢化及び住民意識の変化からか、協議会を構成する委員の派遣が少なくなり、構成委員の固定化が起こっていました。そして今回のコロナ禍の発生です。

2020年(R2)は、新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言が発令され、「ふれあい喫茶」「ふれあい食事会」をはじめ多くの活動を中止しました。この利用の少ない時期を利用して、センター内の工事を行い、気持ち良く利用してもらう準備をしました。

2021年(R3)は、麻雀、囲碁及び合唱クラブを除いた全てのサークル活動を再開しました。しかし、飲食を伴う「ふれあい喫茶」「ふれあい食事会」は、ほとんど開催できませんでした。また、玄関入口に網戸を設置したり、飛沫感染防止のアクリル板を購入したりして、再開に備えました。

2022年(R4)は、参加人数を縮小して「ふれあい喫茶」「ふれあい食事会」を再開しました。また、屋外のスポーツを中心にした、夏休みの「ラジオ体操」、星和台小学校での「グラウンドゴルフ大会」、地域諸団体との「とんど祭り」を再開しました。今では、地域の多くのサークル(音楽、囲碁、各種体操等)が、当センターを利用して活動しています。

現在、利用者数はコロナ禍以前までは戻っていませんが、行事をよく検討し、十分な広報活動を行い、利用者数を回復させたいと思っています。ご協力ください。

星和台鳴子ふれあいのまちづくり協議会委員長　中野　章

ふれあい喫茶

『ふれあい喫茶』は、毎月第１水曜日の１３時～１５時の間、星和台鳴子地域福祉センター１Fで実施しています。
メニューは、飲み物(コーヒーまたは紅茶)と季節のお菓子です。
どなたにでも自由にお立ち寄りいただけます。ご近所の方と誘いあってほっとひといきお茶をしながらおくつろぎください。

ふれあい食事会

『ふれあい食事会』は、事前申し込みをされた７５歳以上の方に、星和台鳴子地域福祉センターで、毎月(８・１２月を除く)第３土曜日の１２時～１３時３０分に実施、手作りの食事を提供しています。
現在は４０名程度の人々でにぎやかに食卓を囲み、食後は歌や踊りなどのアトラクションを毎回楽しんでいただいています。
参加のお申込みは星和台鳴子地域福祉センターで受付ています。

ラジオ体操

『ラジオ体操』は、夏休みに入ると同時に約2週間、６時３０分から星和台公園で開催しています。
自由参加ですので、親子でまた友達と誘いあってご参加ください。

グラウンドゴルフ大会

『グラウンドゴルフ大会』は、毎年１０月に星和台小学校で開催しています。
老若男女、初めての方や小学生、保護者の方も一緒にプレーを楽しめます。
道具はふれまち協議会で準備していますので、スティックをお持ちでない方も気軽にご参加いただけます。
開催案内は、９月の「いぶき」に掲載しますので奮ってご参加ください。

親子クッキング

『親子クッキング』は、以前は年に数回親子で作るお料理教室を星和台鳴子地域福祉センターでおこなっていましたが、近年では８月と１２月にパン作り教室やケーキ教室などを実施するようになりました。
開催案内は、広報誌「いぶき」に掲載しますのでお申込みください。

星和台青少年育成協議会

Ⅱ．地区の福祉団体

戦後すぐ、日本を再建していくべき青少年が敗戦後の虚脱と混乱の中で目標と自らを失い青少年犯罪や非行問題が増加していきました。1952（S27）年、神戸市青少年問題協議会の発会式が行われ、それぞれの地区内の識者や関係者によって組織された支部が結成されました。1973（S48）年に北区が兵庫区から分離独立。北区での青少協は、1974（S49）年に発足し、1980（S55）年に星和台支部は鈴蘭台西支部より独立。当初、その活動範囲は星和台中学校区として組織されました。とても広範囲で、事業もポイントが絞れず、あまり活発に活動出来ていませんでした。"きめ細かい活動が、より必要ではないか？"という思いで、当時の星和台連合自治会役員が各方面に働きかけ、1990（H2）年、多くの関係者が集まり、星和台ファミリーホールで設立総会を開催。星和台小学校区を活動範囲とする星和台支部と鈴蘭台南支部に分かれました。2003（H15）年、神戸市青少年問題協議会から神戸市青少年育成協議会に名称変更。2020（R2）年、「団体」から「会議組織」への移行により、その後、青少年育成協議会星和台支部より星和台青少年育成協議会に名称変更し、今に至ります。

当会は、青少年と地域のつながりを大切にした活動を行っています。また、子ども見守り活動をはじめ、地域と密着した活動を行い、青少年にいろいろな年代の方がつながる事の大切さも伝えたいと考えます。そして、育成委員は研修会等で青少年を取り巻く環境の変化について知見を深める努力をしています。地域の広報誌などを利用し、中学生や高校生なども含め、活動を支えてくださる育成委員や活動ごとに参加していただけるボランティアを随時募集しています。

地域の行政機関や学校園・団体と密接に連絡を取り、情報交換をして活動に反映し、また、近隣の青少協と連携を取り合い、活動しています。その内容は、育成委員会を始め、世代間交流事業、里山フェスタ、ミュージックフェスタ、子ども見守り隊、研修会、パトロール、広報紙発行、トライやるウィーク、星和台鳴子とんどまつり、星和台夏まつり出店、星和台文化祭出店など多岐にわたります。

星和台青少年育成協議会会長　的場　令基

ミュージックフェスタ

『ミュージックフェスタ』は毎回３月に星和台中学校の体育館を舞台に子ども達が歌や踊り、演奏を披露していました。中学校の部活終了に伴い残念ながらミュージックフェスタも幕を下ろしましたが、2025年（R7）まで行われていました。

どどみみくらぶ

をとこ組（鈴高）

実行委員会

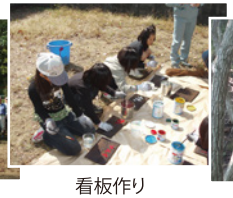
SSバンド

星中吹奏楽部

里山フェスタ

『里山フェスタ』は2011年に第１回が行われ、以降毎回３月頃に開催しています。星和台５丁目の南鈴蘭台公園の伐採を行い、お昼には手作りカレーがふるまわれます。
お父さんが子どもにノコギリの使い方を教える姿や友達と協力して大きな枝を運ぶ姿も見られ、楽しみながらみんなで協力して住みよいまちづくりに貢献しています。

里山フェスタ



看板作り

森林伐採

カレー作り

昼食のカレー

世代間交流事業

『世代間交流事業』は毎回１１月頃に行われます。子どもからご年配の方々まで様々な年代の人たちが、ゆうゆうの里・万寿の家・あすか福祉会を会場にスタンプラリー形式で各場所をまわり防災学習を行います。
けむり体験、VR災害体験、段ボールベッドの組み立て、浄水器の使い方、消火訓練や防災トイレの組み立てなど。お昼には非常食や防災クッキングで作った食事がふるまわれます。

段ボール迷路

ＶＲ体験

消防車体験

段ボールベッド

非常食体験

子ども見守り隊

『子ども見守り隊』は星和台小学校の下校時の見守りを主に行っています。
見守り活動は地域の他団体と協同して交代で行っています。コロナ前までは低学年の下校時に、児童と一緒に自宅近隣まで交通安全や通行マナーなどを教えながら楽しい時間を過ごしていました。コロナ後は密な活動が出来なくなり、自宅近くでの交通要所での立ち番等形態を変化させ見守り活動を続けています。
子ども達の安全安心のために星和台青少年育成協議会が幹事団体となり地域一丸で取り組んでいます。

民生委員児童委員協議会

民生委員制度は、1917年（T6）、岡山県で創設された済世顧問制度を起源とし、100年以上に渡り、地域福祉を支えてきました。1936年（S11）の方面委員制度と戦後の民生委員法による法制化を経て、時代の変化と共にその役割を広げてきました。

1973年（S48）北区が発足。1980年（S55）以降、地区分割を繰り返し、星和台地区民生委員児童委員協議会は、1995年（H7）に発足しました。

民生委員・児童委員は、地域住民の最も身近な存在として、高齢者や子育て家庭、生活に不安を抱える方々に寄り添い、見守りや相談支援を行っています。

星和台鳴子地域においては、民生委員・児童委員11名に加え、友愛訪問ボランティア50名が連携し、日頃から見守り活動に努めております。

また、民生委員地区定例会では、各委員が1か月間に経験した事例を中心に発表し、その対応や工夫について、互いに学び合う機会を設けております。

現場の生の声を共有する事で、支援の質を高めることが出来ており、非常に有意義な取り組みとなっております。今後も活動に関わる皆様に役立てていただけるよう事例発表を中心とした学びの場を大切にしてまいります。

自らも地域の一員として住民の声に真摯に耳を傾け、関係機関と力を合わせながら、隣人愛の精神を胸に刻み、誰一人取り残さない地域づくりに全力で挑み続けてまいります。

地域の笑顔と安心を守る最後の砦としての誇りを胸に、これからも情熱を持って歩みを止めることなく活動してまいります。

星和台地区民生委員児童委員協議会 会長 山田博史

寿会 ／ 婦人会

■寿会■

星和台連合自治会発足後に寿会が出来、今年46年を迎えることが出来ました。

これもひとえに長年にわたり会を支えて下さった諸先輩方のご尽力と会員の皆様、そして地域の皆様の温かいご支援の賜物と心より感謝いたします。

46年の歩みを振り返ると親睦行事や健康づくり、地域との交流などを通じて多くの笑顔と絆が生まれたと思います。時代の変化と共に活動内容も変わってきましたが「仲間と共に元気で生き生きと暮らす」という思いは、今も変わらず受け継がれていると思っています。

これからも会員一人ひとりが、無理なく参加でき、安心して集える場でありたいと思っています。地域に親しまれる寿会を目指します。今後とも変わらぬご理解とご協力をお願いするとともに寿会の更なる発展を望んでいます。

寿会会計　高橋伸子

旅行（恵方三社詣）

旅行（阿波人形浄瑠璃）

食事会

誕生会

■婦人会■

婦人会の開設により、地域に馴染みながら婦人の学習の場所ができました。また、自治会活動の行事計画から参加し、市、区、地域のボランティアを通して、楽しい人との出会いもありました。

今現在は、高齢化に伴い活動が難しくなってきましたが、住みよい街で、安心して暮らせる事が何よりの幸せです。今、2丁目の星和台公園にある市民花壇は、婦人会が市に働きかけ実現しました。美しい四季折々の花が咲き、道行く人の心を和ませてくれています。

元婦人会・なごみ会会長　松田　好美

婦人会

花壇１

花壇２

婦人会の広報誌

星和台・鳴子とんどまつり実行委員会

II・地区の福祉団体

『地域の伝統を、そして子ども達の思い出作りを』

ふるさとの伝統的文化行事である、星和台・鳴子「とんどまつり」は星和台小学校の学校行事として始まりました。その思い出は、卒業生の方々の心に今でも鮮明に残っていると思います。やがて、阪神淡路大震災や、それに伴う学校教育の変遷により「とんどまつり」は、学校行事から地域行事へと移行していきました。

当初、連合自治会が主催し、翌年に、子ども達を取り巻く地域内各種団体の共催として実施されるようになり、現在に至っています。授業参観とからめた形で実施されることもありました。

透き通った青空に真一文字にかけ昇っていく「とんどの炎」。その炎を見つめる地域の方々、親子連れの方々。未来を担っていく子ども達の澄んだ瞳の先に、明るい未来が、そして平和な世界が訪れることを祈念し、伝統を繋いでいきたいと思います。

星和台・鳴子とんどまつり実行委員会　実行委員長　増田　信政

２０１６年

神港橘高校『龍獅團』

ふるまい（餅つき）

２０２６年

ソーラン隊『宝』

ふるまい（お茶出し）

星和台鳴子防災福祉コミュニティ

III・地区防災の取組み

■設立の経緯■

1）1995年の阪神淡路大震災では、救助された人の大多数が「自助」「共助」によるものと判明。大災害における消防や警察等による行政救助の限界が判明しました。

2）神戸市は地域自主防災力（自助・共助）強化に取り組む団体として、「防災福祉コミュニティ」の組織化を計画しました。

3）「防災福祉コミュニティ」は神戸市条例に基づき、市内の小学校単位で設立され、現在192団体が活動中。

4）自治会、福祉団体、事業者、市民団体、医療機関、ボランティア団体等、様々な地域団体の集合体です。

１９９５年１月１７日　午前５時４６分

震　　度：　７．３／Ｍｇ
死 者 数：　６４３４人
倒壊家屋：全壊　約１０万５０００軒
　　半壊　約１４万４０００軒

■活動の目的と内容■

1）地域自主防災力強化による減災の取組み。

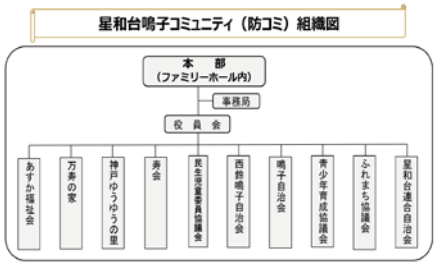
2）主な活動

①地区防災計画／地区ハザードマップの作成と配布および周知活動。

②定期的な地区防災訓練の実施。

③住民や学童に対する防災教育。

④構成団体代表者会議の定期開催。



■活動の様子■

様々な防災イベント機会を通して、住民の防災・減災意識の向上を図り、もって地域自主防災力の強化を推進します。

地区防災計画とハザードマップ

1）2021年、星和台鳴子地区の防災計画およびハザードマップを製作。星和台鳴子地区の全戸に配布しました。

2）本書は地域の様々な防災情報が網羅されており、災害発生時の自主避難に役立つ地域の防災情報誌です。

3）毎年、住民の皆様に対し説明会を実施しています。

防災訓練

1）災害対策本部および避難所の開設訓練を実施します。

2）星和台青少年育成協議会との共催により、地域内の高齢者福祉施設を利用したスタンプラリー形式の防災訓練を実施します。

防災教育

1）地域住民や学童を対象とした「地域防災教育」を毎年定期的に開催しています。

星和台連合自治会

■青色防犯パトロール■

1） 主な活動
　①日祝日を除く全日専用車両で防犯等の放送をしながら地区内を巡回する。
　②各丁の安全委員及びボランティアで運営。
2） 時期　2003年(H15)6月より開始。現在23年目を迎える。
3） 効果　空き巣・違法駐車等の抑止に繋がる。

■子ども見守り隊活動■

1） 主な活動
　①星和台小学校児童下校時の見守りを各ポイントで行う。(連合は月1回)
　②星和台青少年育成協議会が幹事となり地区内7団体が週2回実施する。住民や学童に対する防犯教育。
2） 効果　児童の安全と車輛等への啓発

■違法駐車等追放パトロール■

1） 主な活動
　青色パトロールによる啓発、行政への違法駐車の実態報告。年一回違法駐車等追放パトロール実施。
2） 目的　緊急時等の住民の安全確保を目的に道路上の違法駐車等追放を目指す。

星和台連合自治会

■いぶきの発刊理念■

『地区住民の良好な住環境の維持・向上に貢献する』
1） 地区情報の共有化による情報格差の解消。
2） 地区コミュニティの活性化と郷土意識の醸成。
3） 防犯・防災体制の強化支援。
4） 自治会活動の可視化。

■構成内容■

1） 連合自治会活動の予告、行事案内、事業報告、ニュース
2） 各丁自治会の行事など各丁便り
3） 各種団体(婦人会・子供会・寿会・青少協・ふれまち等々)の便り(時代により変化)
4） 会員の転入・転出などの消息
5） 会員の日常生活に必要なPR
6） 会員の提案、要望、随筆等々
7） 文化教室、文化同好会の案内
8） 会員の短歌、俳句などの文芸作品の発表
9） 「時の人」
10） 星和台歴史散策
11） 税金問題PR　　等々

■歴史■

様式はA3両面の1枚印刷から始まり、A3両面の2～3枚になることもありました。現在のA4のページ冊子型となったのは、2003年(H15)6月の234号からでした。発刊も毎月ではありませんでしたが、1995年(H7)から毎月となしました。また、1998年(H10)からは「いぶき」発行日が毎月15日となりました。
「いぶき」100号1992年4月／200号2000年8月／300号2008年12月／400号2017年4月／500号2025年8月でした。

- 1973年(S48)8/1北区が誕生
- 1979年(S54)11月星和台連合自治会発足
- 1982年(S57)「いぶき」1号創刊
- 1995年(H7)「いぶき」が毎月発刊となる
- 1998年(H10)5月「いぶき」発刊を毎月15日となる
- 2025年(R7)8月「いぶき」500号を発刊
- 2026年(R8)4月「いぶき」500号記念特集誌を発行

いぶき１号

いぶき５００号

索引・引用　『星和台・鳴子むかしと今』著者：萩原和久・柏木一伸
いぶき500号記念特集誌　2026年4月発行
編集・発行　星和台連合自治会・広報委員会